



あぜ
VOL. 2 畦町宿

唐津街道の宿場町として栄えたまち並みを生かし、
新たな魅力でにぎわいを創出する「ほっとするまち」

江戸時代から明治時代半ばにかけ、宿場として栄えた畦町宿。バンコという家の軒下にある折りたたみ可能な縁台や、卯建^{うだつ}という建築様式など、当時の様子を感じさせる風景が所々に残されています。この畦町宿で「ほっとするまち畦町」をコンセプトにまちおこしをするのは唐津街道畦町宿保存会。古民家を活用した「あぜのまち絵本美術館」や「ぎゅらりい畦」、夜道を照らす灯籠など、昔ながらのまち並みを生かしつつ、アカハライモリなどの新たな魅力でにぎわいを創出しています。例年10月には「唐津街道畦町宿祭り」が開催され、さまざまなステージイベントなどを楽しむことができます。



▲道路沿いや個人宅にも設置されている全10基の灯籠



「福津三十六景」とは

市が誇る優れた景観や伝統的な祭りの風景などのこと。上に掲載している写真は、広報ふくつで募集し、選定された末廣隆さんの作品で「唐津街道畦町宿祭り」でにぎわうまち並みを撮影したものです。

福津三十六景を訪れる際は、交通ルールを守るなど、マナーアップを心掛けましょう。